ソニー株式会社は、五十嵐卓也氏を W3C Advisory Board に推薦いたします。

　五十嵐氏は、東京を拠点とするソニーの R&D センターの上級研究員です。彼の W3C での経歴は、2011 年に Web におけるメディア技術に取り組む「Web and TV Interest Group」へ参加に始まり、現在は、後継の「Media and Entertainment Interest Group」の共同議長を務めています。過去 10 年間、ソニーの W3C Advisory Committee 代表を務め、ソニーグループの W3C 活動を強力に支援してきました。W3C での活動に加え、ホームネットワーク、IPTV、放送などの分野で、1394TA、UPnP、DLNA、オープン IPTV フォーラム、HbbTV、ATSC 3.0 など、多くの標準化活動にも貢献しています。また、業界主導のフォーラムの設立と運営についても経験と専門知識を持ち合わせています。
　ソニーは、五十嵐氏が W3C の Advisory Board となることを支持し、W3C メンバーと Web コミュニティを支援するために必要な専門知識を持って貢献できることを確信しております。

　五十嵐氏の選挙表明は以下の通りです。
私が初めて Web と出会ったのは 1994 年でした。当時、私はソニーで CD-ROM や MiniDisc を使ったマルチメディアシステムに携わっていた若きソフトウェア技術者でした。私たちはハイパーリンクとハイパーメディア技術を記録メディアに適用する研究しておりました。初期の NCSA モザイクブラウザの出現が、人々がインターネット上の情報を探索することを可能したことに、非常に驚いたことを覚えています。私は、1995 年に HTML 2.0 準拠のブラウザを搭載したテレビインターネット端末を開発する新しい R&D プロジェクトを開始し、ソニーの子会社であるインターネットサービスプロバイダの開発チームを率いました。当時、その機器を市場に問う挑戦は上手くいきませんでしたが、その経験から、Web 自体について多くの事を学びました。それ以来、私は Web 技術を取り入れた IPTV と放送の標準に取り組んできました。2 年前、私は Web をより信頼でき、分散化するために、ブロックチェーン技術に関する研究を始めました。私は本当に Web の信者です。

私を W3C Advisory Board に選出いただけた場合、AB/2020 の優先事項に従って、特に以下の活動の支援に取り組みたいと考えています。

- W3C は Web を主導し続けていきます: 「W3C Legal Entity」への移行の成功は、今後の W3C にとって極めて重大です。「W3C Process 2020」のプロセス改善

もまた、W3C 勧告が、広範囲にわたるレビューと総意に基づく決定で策定され、継続的に更新されて行くために重要です。他の AB メンバーと協力し、将来の成功のために W3C に助言し、支援したいと思います。

- W3C は多様な参加を促進します: 「One Web」の精神の下、国/地域だけでなく、様々な文化・産業・環境の人々が W3C 標準の開発に関与できるようになるべきです。そのため、第 1 に言葉の壁を乗り越えるための「W3C Globalization」の議論を加速したいと思います。第 2 にメディアエンターテインメント、出版、金融、通信など、IT 業界とは異なる技術的背景と標準化スタイルを持つ多様な産業分野から、より多くの参加を奨励したいと思います。第 3 に私は、持続可能性のため、若い世代を W3C に巻き込む事にも取り組みたいと思います。

- W3C は Web の進化を探求します: W3C の使命は、World Wide Web を最大限の可能性に導くことです。「W3C Strategy」と「W3C Incubation」の活動は、Web 進化の探求を促進できると信じています。私は Web に関する技術的な知識を持っているので、Web ソフトウェア エンジニア、Web アプリ開発者、Web テクノロジ研究者の視点から議論に積極的に貢献します。

英語は私の母国語ではありません。しかし、20 年間、世界中の友人のおかげで、国際標準化活動で良い経験をしてきました。さらに多くの W3C の方々とコミュニケーションを取り、ご協力できることを楽しみにしています。AB 選挙のご支持をいただければ幸いです。